

昨日黎明館に行く途中で鶴丸城御楼門の建設事前調査のための遺跡発掘を見物しました。

土器類も出てきていましたよ。いよいよ御楼門が実現しますね。

森 繁 3月4日

楼門は、江戸時代に島津家18代当主・家久が築いた鶴丸城の城門で、1873年(明治6年)に火災で焼失した。城跡は県指定史跡で、鹿児島市城山町の県歴史資料センター黎明館近くに石垣や堀の一部が残っている。

実行委は、城の象徴とされる楼門を復元させようと、昨年、専門家を交えて設立された。玉川文生・鹿児島経済同友会代表幹事が実行委員長を務め、街の新たなシンボルにするため取り組んでいる。

総事業費を7億5000万円と試算し、うち4億5000万円を寄付で、残る3億円を県と鹿児島市からの支援で賄うことを計画。実行委によると、企業に賛同を呼びかけたり、街頭で協力を募ったりしたところ、4月末現在、法人から約4億4000万円の申し込みが寄せられ、個人やグループから約1800万円が集まった。一方、県は復元に備えた修復工事費として今年度予算に約1億4300万円を計上した。

実行委は焼失前の写真や礎石をもとに、楼門を最大で幅約24メートル、奥行き約13メートル、高さ約20メートルと推測し、来年の着工を目指している。消費税率の引き上げや木材価格高騰などから、事業費が膨らむ可能性があるとして、今後も街頭などで協力を呼びかける方針だ。(西日本新聞記事より)

